平成30年度　佐賀県立佐賀東高等学校　学校評価結果

資料２

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
校訓「使命に生きる」「自主自律を尊ぶ」「明朗清新を喜ぶ」の精神のもと、健全な社会の構成員として、生涯にわたって自ら学ぶ意欲を養うなど、生きる力を育み、心身ともにたくましく活力に富み、感性豊かな人間の育成を目指す。	①基本的生活習慣の確立と安全・安心な学校づくりのために、全職員協働で生徒指導に当たるとともに、部活動の活性化に努める。 ②進路指導の充実を図り、生徒の進路希望の実現に向けたきめ細かな指導を行う。特に進学面では、より高い実績を目指す。 ③少人数学級編制のメリットを最大限に生かし、生徒個々に応じた指導を通して魅力ある学校づくりを推進する。 ④研究授業や授業参観を通して、指導方法の工夫改善を図り授業力の向上に努める。 ⑤保護者や地域社会、関係機関との連携を密にし、信頼関係を深めるとともに、本校の情報を積極的に発信する。

達成度　A：ほぼ達成できた
B：概ね達成できた
C：やや不十分である
D：不十分である

3　目標・評価

①基本的生活習慣の確立と安全・安心な学校づくりのために、全職員協働で生徒指導に当たるとともに、部活動の活性化に努める。

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	基本的生活習慣の確立	◇遅刻者の延べ人数を前年度より20%減少させる。 ◇特別指導の措置件数を減少させる。	○遅刻の増えそうな日には、事前に指導する。 ○特別指導が発生しないように、軽はずみな行動が自分自身や周りに大きな影響を与えることを、前もって認識させる。	A	遅刻者数は、昨年度比36%の減少を達成できた。また、特別指導措置件数も7件の減を達成でき、昨年度の半分に減少した。	新年度当初より5分前行動習慣を定着させるように指導していく。生徒一人一人が、自律と他律を心構えに持つ指導を行っていく。
		交通ルールの順守と交通事故の減少	◇乗車マナー指導を各学期に1回以上実施する。 ◇駐輪場の整理整頓・施錠を指導する。 ◇交通事故件数を20件以内にする。	○毎朝の登校指導を行う。 ○各学期に1回以上、通学路にも職員を配置して指導する。 ○学年ごとに駐輪場を指定し、定期的にチェックする。 ○昨年度の交通事故データを元に事故減少のための注意喚起を根気強く行う。	B	毎朝の登校指導を確実に行うことができた。また、再登校を必要とする生徒は2名いたが大きく減少している。各学年の生徒指導担当により月2回の自転車施錠チェックを行うことにより施錠率が向上した。また、自転車事故件数も減少した。	登校指導、施錠チェック、交通事故予防指導を継続的に行い、現状に問題点がある場合は、早め早めにクラス、学年、全校で指導を行っていく。
		部活動活性化の推進	◇新入生の入部率を80%以上にする。 ◇ボランティア活動を積極的におこなう。 ◇HPの部活度の欄を充実させる。	○部活動紹介や体験入部の内容をより豊かにすることで、入部を促す。 ○ボランティア活動の案内や参加を積極的に促す。 ○新しい情報を収集し、発信する。	C	○新入生の入部率は80%を超えた。しかし1年女子は70%だった。また、女子の部活動加入率が全体で60%と低い数字が出ている。 ○ボランティア活動の案内や呼びかけは昨年度より多くできた。 ○HPについては充実できていない。	○女子部活については廃部や新部の設置など大きな改革が必要。 ○ボランティアは地域と連携しながら継続していく。 ○HPは学校全体で充実させていく必要がある。
		人権・同和教育の推進	◇すべての生徒が差別を許さず、差別をなくしていく民主社会の形成者となるように、その育成に努める。	○担当者が他校のホームルームを参観し、十分な職員研修を行い人権・同和教育のホームルーム活動等を実施する。 ○学校生活を落ち着いて送れるための雰囲気作りを確保するために、教師が見本となる言葉遣いや態度で生徒の指導にあたる。	B	生徒対象の研修会やLHRでの実施については、事前の準備・打合せ等スムーズに行うことができ、人権・同和教育に対する知識・理解の定着を図ることができたと考える。今後も学年や生徒指導部、教育相談担当等とも連携し進めていきたい。	LHRの年間計画を立てたが、講師依頼等の都合により弾力的に日程調整を行い、確実に研修を実施できた。今後も教育センターや佐賀市の事業等も利用するなどして実施していきたい。
教育活動	●健康・体つくり	清掃活動及び健康増進の充実	◇学習活動に適した環境づくりを推進する。	○清掃活動を充実し、校内美化に努める。 ○ごみの分別及び持ち帰りを徹底する。 ○美化情報等を適時に発信する。	B	校内美化やごみの分別は教師の粘り強い指導で概ね達成できた。課題は生徒数と掃除場所のバランスを考えていきたい。	掃除場所が多いため、隔週で場所を変える必要がある。ゴミの分別は生徒会と連携して年間通して呼び掛けていきたい。
		教育相談活動の充実	◇担任・教科担当者・養護教諭ならびに家庭と連携して、困難を有する生徒の状況を積極的に把握し、早期の支援に取り組む。 ◇必要に応じて外部機関との連携を図る。	○欠席や欠課を確認し、学校生活に集中できない状況が見込まれる生徒に、カウンセラーとの面談などの支援を積極的に働きかける。 ○学校生活に困難を有する生徒の情報を、ケースごとに職員間で共有する。 ○校外の医療機関や専門機関と連携して、個々の生徒の状況に応じた支援を行う。	B	○一部の生徒情報については、学年、教科担当者間での情報共有により、適切な支援を行うことができた。	○一部の生徒については、結果や欠席の情報が入ってこず、情報共有が不十分なことがあった。
	●いじめの問題への対応	組織的な対応	◇いじめの未然防止に努める。 ◇いじめの早期発見、早期対応、被害の最小化に努める。 ◇被害生徒の回復に向けて、組織的に支援する。	○ホームルームや生徒会活動、教科指導等を通し、好ましい人間関係等、いじめ問題についての適切な指導を行う。 ○いじめの疑いの覚知やいじめの認知に至った場合は、速やかにいじめ・体罰等対策委員会等を招集して対応を協議、遂行する。 ○被害生徒の状況を継続的に確認する。	B	○アンケートによる情報のほか、生徒からの訴え等に早急に対応することにより、早い段階で対応できた。	○まだ、職員には見えていない問題があると思うので、細かくアンテナを張り、生徒理解に努めていきたい。

②進路指導の充実を図り、生徒の進路希望の実現に向けたきめ細かな指導を行う。特に進学面ではより高い実績を目指す。

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	○進路指導	進路意識の向上	◇3年間を見通して生徒が段階的・継続的に学ぶ姿勢を育む企画を立案・実行し、主体的な進路選択ができるようにする。	○進路指導計画をもとに、各種ガイダンスや講演会を行う。事前の指導を充実させ、目的意識を持った主体的な参加を促す。また、事後には学習用プラットホーム（Classi）を活用した振り返りを行い、生徒自身が自己の変化・成長を認識できるようにする。 ○主体的・対話的で深い学びを体感し、学ぶことの楽しさを実感できる行事を企画する。 ○Classiを活用して個人面談を充実させ、適切な進路選択ができるように支援する。	B	○ガイダンスや講演会の事前・事後の指導を行うことができた。活動の振り返り等を入力することまでは実施できたが、それによって生徒が自身の変化や成長を意識できるほどは活用できなかった。 ○アクティブラーニング型学問研究を企画し、3月19日に実施する予定である。 ○Classiの面談活用については、一部の教員、生徒にとどまった。	○振り返りを入力するとともに、次の行事の事前学習で前回の振り返りを確認するという活動を取り入れる。それによって、前回の活動を意識し、それを上回る活動を引き出す。 ○生徒の学びに対する意欲を喚起する企画を考え、リニューアルする。 ○Classiの活用研修会を実施する。
		進路希望の実現	◇国公立大学および難関私立大学の合格者20名以上を目指す。 ◇進学希望者それぞれの第一志望合格を目指す。 ◇就職希望者全員の希望職種への就職を実現する。	○全国模試を起点としたPDCAサイクルをまわし、チェックの機会として学力検討会を開催し、生徒の状況把握と授業の方針について常に情報を更新し、効果的な授業が展開できるようにする。 ○的確な入試情報の提供を行い、合格に必要な力を育成するための支援を行う。 ○面接練習やマナー講座を企画し、就労意識を高める。 ○会社訪問を積極的に行い、求人の開拓をする。	C	○進研模試を各回問題分析していただき、次の試験までの目標や手立てを考える機会としていただいた。学力検討会については、全体の2／3程度しか実施できなかった。 ○国公立大学・難関私立大学の合格者は7名（2月12日現在）にとどまった。 ○面接練習やマナー講座は効果を上げ、就労意識を高めることができた。	○学力検討会の資料作成を簡略化し、実施しやすくする。また、実施日を年間行事予定にあげる。 ○適切な進路情報の提供とともに、適切な進路指導を行うための研修会を実施する。 ○面接練習やマナー講座は引き続き実施し、2年次の進路学習にも取り入れる。

③少人数学級編制のメリットを最大限に生かし、生徒個々に応じた指導を通して魅力ある学校づくりを推進する。

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	基礎学力の充実	◇日々の授業や補習等がきちんと実施できるよう授業時間や学校行事の精選等の工夫をし、授業時間を確保した上で、授業の充実や家庭での学習習慣の定着を図り、意欲的に学習に取り組ませる。	○講演会等を通して、学ぶことの大切さを理解させる。また、授業見学や授業研究を行い、授業を充実させる。さらに、小テストや宿題等を計画的に与え、家庭学習の定着を図る。 ○補習や土曜講座等への参加を促し、計画的に実施することで、学力の定着を図る。	C	○学ぶことの大切さを伝える講演会は行うことができたが、授業見学や授業研究会を行うことができなかった。 ○生徒の意欲を十分には引き出すことができず、補習や土曜講座を活用して効果的に学力を向上させることができたとはいえない。	○授業の公開、授業研究会を積極的に行い、授業を活性化させる。また、生徒が自分で学びを深める時間を設定する。 ○補習等の在り方を生徒・教員に問い直し、シラバス等を作成してお互いの目的をすりあわせた上で実施する。
		個に応じた指導の充実	◇少人数学級編制の利点を生かし、細かな授業展開や学力層に応じた指導を計画的かつ継続的に実施する。	○授業の展開や課題・小テスト等を工夫して、生徒個々の到達目標を明確にする。 ○定期考査や各種模擬試験等を活用して、到達度をはかる。また、事後指導や面談などを利用しながら、フォローアップを行う。	B	○少人数である利点や小テスト・課題等を活用して生徒とコミュニケーションを図り、きめ細やかな指導が行われた。 ○学力検討会等で共有された情報を面談で活用できた。	○生徒についての情報交換や指導の方向性についての話を日常的に行い、自然な形で情報共有を図り、生徒一人一の状況が把握できるようにする。

④研究授業や授業参観を通して、指導方法の工夫改善を図り授業力の向上に努める。

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○教職員の資質向上	職員研修の充実	◇毎週実施の教科会議における教材研究会や教科研修会に加え、公開授業や研究授業、授業参観、ICT利活用教育研修会、教育センター研修等を通して、絶えず自らの授業改善に努める。	○校内外における研修の機会を積極的に利用できるよう、情報提供と環境づくりに努める。 ○各教科において、授業の際に気軽に参観できるような雰囲気づくりに努め、更なる授業力の向上を図る。	B	各教科会での授業検討会や相互授業参観、ICT利活用教育の授業公開など積極的に実施することができた。また教育センター等を利用した校内外における職員研修への参加者も多く見られた。	今後も教頭および教務・進路からの積極的なアナウンスを継続して、研修会に参加しやすい雰囲気をつくっていきたい。また、各教科の授業の際に気軽に参観できるような体制を取り、授業力の更なる向上を図っていきたい。
		教科指導力の向上	◇進路指導部主催の研修会や教科研修会、県教委主催の教科研究会等をとおして、職員一人一人が教科指導力を高めるために、自己研鑽に努める。また、職員相互の情報共有を図る。	○教科会議等を通して各教科内における情報の共有化を図る。 ○大学入試問題の傾向や特徴、変更点等について絶えず情報を更新するとともに、授業や進路指導へのフィードバックを図る。また、高大連携による入試改革に対する情報収集を行い、最新の情報を提供する。	C	○職員研修への積極的な参加を促したが、多忙を理由に研修への参加を見送る先生もみられた。業務の精選を行い、自己研鑽の機会を積極的に得られるようにしたい。 ○大学入試が大きく変化しているが、教科での勉強会などを企画できなかった。	○模試の分析等を活用して協会内での研修会を行い、スキルや知識の共有化を図りたい。 ○外部機関を利用した研鑽の機会の積極的な活用を促す。

⑤保護者や地域社会、関係機関との連携を密にし、信頼関係を深めるとともに、本校の情報を積極的に発信する。

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○学校経営方針	本年度の重点目標の周知及び達成に向けての推進	◇生徒・保護者対象のアンケートにおいて、前年度に比較して10%以上認知率が高まるよう取り組む。	○「学校だより」の紙面、その他さまざまな機会を通して、本年度の重点目標についての広報を行い、生徒・保護者への周知・浸透を図る。	B	重点目標の認知率は41%となり昨年度を大幅に上回った。本校の教育活動が生徒・保護者・地域の方々に浸透してきたと考える。	次年度も学校だよりやホームページ等さまざまな媒体を通して、生徒・保護者への更なる周知を図っていく。
学校運営	○開かれた学校づくり	地域社会との連携	◇地元自治会等と連携・連絡を密にし、地域主催行事への協力等を通して、地域社会における信頼感の醸成に努める。また日頃より学校の活動を理解してもらうためにも情報発信を心がける。積極的に生徒の地域へのボランティア体験を推奨することで生徒の地域や佐賀県全体への誇りを育成する。	○さがを誇りに思う教育についての学習によりさがや地域の一員としての自覚を養う。 ○主要な行事ごとに部活動単位で協力を募り、地域社会との連携を深める。 ○ボランティアへの参加は部活動単位だけでなく、各分掌や各学年と連携してより多くの生徒を参加させる。また参加した生徒や部活動を学校だより『飛翔』や学校ホームページで紹介し、その活動意義の周知を図る。	B	さがを誇りに思う教育については1～3年までさが維新博の観覧、さがを誇りに思う講演会の開催等を通して積極的に行うことができた。ボランティアについても部活動以外の生徒の参加も多く見られ、また参加した生徒には生徒会がボランティア参加証明書を発行し、生徒の実績として残すことが出来た。一方でHPの改善がはかどっておらず、情報発信はまだまだ工夫が必要であった。	次年度は維新博のような県全体の行事は少なくなるかもしれないが、今後もさがを誇りに思う教育には力を入れていきたい。ボランティアについては引き続き、参加証明書の発行など生徒の参加意欲を高める工夫を取り入れていきたい。HPの改善については学校全体の問題として取り組みたい。
		地域・保護者への情報発信の推進	◇学校だより「飛翔」を年5回発行する。また学校ホームページの更新に努め、内容を充実する。	○学校だより「飛翔」は全校生徒はもとより学校評議員、地元住民に配布する。また佐賀市周辺の中学校へも配布し掲示を依頼する。 ○SEI-Netの活用を通してホームページ更新に努める。	B	学校だよりについては計画的に発刊でき好評であった。ホームページについては更新が思うようにできず保護者や地域の方々の期待に十分に応えることができなかった。	学校だよりについては今後も工夫しながら作成していく。ホームページについては、なるべく早い更新を心掛け見やすいものを作っていきたい。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体つくり	食育の推進	◇保健指導や家庭科・保健体育等の授業を通して、健康についての自己管理能力を高める	○朝食摂食率90%を目指しつつ、家庭科や保健体育の授業、LHR活動等を通してより良い食生活を送れるように促す ○生活習慣アンケートの結果を踏まえて、「保健だより」等を活用して情報発信を行う。 ○食育に関する講演会を実施し、生徒の食に関する意識を高める。	B	○朝食の喫食率は目標値に近い数値であったが、食事内容を改善できるような指導をしていきたい。 ○3年生の授業時に「食育だより」を作成し、掲示した。今後も継続して取り組んでいきたい。 ○食育講演会も分かりやすく生徒の食に関する意識を高めることができ	○食事内容の充実については、関連教科の時間を活用して指導をしていきたい。 ○今年度実施した生徒が作成した「食育だより」の掲示を今後も続け、生徒の食に関する意識を高めていきたい。
学校経営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	時間外労働時間の縮減	◇月別時間外労働時間100h超者の延べ人数を、前年比10%以上減らす。 ◇定時退勤日を各学期に1日以上設ける。	○部活動の週1日の休養日と、土日の休養日を各月1日以上設定することを、各部顧問に要請する。 ○行事予定表に掲載するなど、早めに周知を図り、無理なく定時退勤できるよう計画的に実施する。	B	部活動の休養日の設定や振休の取得などは教職員の協力もあり、改善された。また定時退勤推進日も設定することができた。しかし一部の職員の長時間労働の改善はまだまだ不十分であった。一部の職員の負担軽減が今後の課題である。	次年度は月別時間外長時間労働が100H超・80超の教職員数をできるだけ減らすように努力をしていきたい。また業務の分担当の改善も進めていきたい。
教育活動	○図書館教育	読書活動の推進	◇学校図書館の計画的な運用と機能の活用を図り、生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動の充実に努める。 ◇「明治維新150年」にちなみ、「さがを誇りに思う」精神をさらに深めるための方法を、学校図書の観点から考え、企画・実践する。	○図書館報の配信を行い、学校図書や書籍についての関心を深めてもらい、貸し出し冊数や利用人数の増加を図る。 ○生徒個人のみならず、各部活動や生徒会などに呼び掛け、図書選定リクエストを実施する。 ○集団読書指導を年間2回実施する。 ○「肥前佐賀」や「幕末維新」にまつわる書籍をさらに導入し、生徒・職員の郷土に対する関心を深める。	B	○生徒会図書委員会と連携をはかり、各部活動に「図書選定リクエスト」を行い、複数の部活動が図書を希望した。今後も部活動活性化に貢献したい。 ○地区の図書研修会にて本校演劇部が講演講師として招聘され、図書にまつわる劇を上演した。生徒たちからみた「図書」のありかたを伝えることができたように思う。	1、2年の各クラスに、知識や教養を深めたり、進路意識を高めたりすることができるような書籍を置く予定である。また、館内のレイアウトを新しくし、利用しやすい環境づくりに努めたい。 次年度は、芸術鑑賞会が開催される。芸術が生徒たちの心の教育につながるよう努めたい。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目